

## 中山間地域等における在宅医療・介護連携に関する調査研究事業

# 少子高齢化・人口減少・少資源のまちから 在宅医療・介護連携の可能性を考える

主催：株式会社富士通総研 協力：厚生労働省中国四国厚生局

中山間地域は、少子高齢化・人口減少が進み、医療や介護等の社会資源も少なく、将来の日本の縮図・課題先進地域として取り上げられることが多々あります。

しかし、「少ない」からこそ互いの知恵と力を活かしてやらねばならないこと、「少ない」中でもできることもあります。市町村が連携し圏域全体で強い医療・介護の体制をつくる、在宅医療・介護の専門職連携を超えた連携による住み続けられる地域づくりで在宅生活の限界点を上げる、年齢を重ねて変化する高齢者を医療・介護の専門職をはじめとする含む地域の関係者が一丸となって包括的に支える・

これらは「在宅医療と介護の連携」があるからこそ成立する地域包括ケアシステムの姿でもあります。

本報告会では、本調査研究の中で確認された内容の報告とその実施プロセスに着目した取組事例のご紹介、シンポジウムを通じて、これからの在宅医療・介護連携における可能性を考えます。

開催日時

オンライン開催 (zoomウェビナー)

令和6年3月11日(月) 13:00~16:00

締切：令和6年3月7日(水) (※先着順締切 上限450名)

お申し込みは特設サイトから (URL・QRコードとも同じです)



参加費無料

<https://www.fujitsu.com/jp/group/fri/report/elderly-health/2023regionalpolicy1a.html>

13:00	開会
13:05	<b>I. 事業実施報告</b> 中山間地域等における在宅医療・介護連携に関する調査研究の報告 株式会社富士通総研 (調査研究事務局)
13:30 ~14:50	<b>II. 事例報告</b> ※タイトルは予定であり、変更する可能性があります 事例① 広域・複数市町で取り組む在宅医療・介護連携 鳥取市福祉部次長 (兼) 長寿社会課長 橋本 渉氏 事例② 複合的な支援を行う拠点を中心とした医療・介護・生活を支える活動について -事例から得たヒントを他の地区で展開するには- 廿日市市在宅医療・介護連携相談支援室 保健師 阿部 朱美氏 特定非営利活動法人ほっと吉和 理事長 益本 住夫氏 事例③ 住民、専門職、町でわが町の医療・介護・福祉・保健の連携システムをつくる 社会福祉法人奈義町社会福祉協議会 生活支援コーディネーター 植月 尚子氏
	(休憩)
15:00 ~16:00	<b>III. パネルディスカッション</b> ~少子高齢化・人口減少・少資源のまちから在宅医療・介護連携の可能性を考える (コーディネーター) : 埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究所 研究開発センター 教授 川越 雅弘氏 (パネリスト) 鳥取市福祉部次長 (兼) 長寿社会課長 橋本 渉氏 廿日市市在宅医療・介護連携相談支援室 保健師 阿部 朱美氏 特定非営利活動法人ほっと吉和 理事長 益本 住夫氏 社会福祉法人奈義町社会福祉協議会 生活支援コーディネーター 植月 尚子氏

お問い合わせ

株式会社 富士通総研 行政経営グループ 担当：名取・藤原・金

Email : [fri-regionalpolicy@cs.jp.fujitsu.com](mailto:fri-regionalpolicy@cs.jp.fujitsu.com)

電話 : 03-6424-6752 (直通) Fax : 03-3730-6800